



自由通路を利用する人たち

## 可児駅が変わりました

3月23日、JR可児駅の東西を結ぶ自由通路の利用が始まりました。これに伴い、地下道と駅北側の今広踏切は閉鎖され、使用できなくなりました。

自由通路と駅構内ホームにはエレベーターが設置され、自転車も利用できるなど便利で安全に行き来できるようになりました。開通時に訪れていた人は「明るくてエレベーターもあり、通行しやすい。可児の駅前が変わって、うれしいです」と話してくれました。

## 笑顔で全力疾走

4月1日に、土田の白鬚神社の大祭・流鏝馬祭りが行われました。約450年続くとされる祭りで初めて女性騎手として、中学生の山本結鈴さんが登場。加藤潤起さんとともに「本乗り」という大役を務めました。

半年間練習を重ねて臨んだ本番。山本さんは満面の笑みで参道を駆け抜けました。「走る前は緊張した。はじまると今までで一番速く走って驚いた」と終始笑顔で話してくれました。



参道を駆ける山本さん



【左】三階倉(壁面保護前)

【右】東濃信用金庫、市原理事長(左)と市長

## 観光振興に土地と建物を寄贈

4月5日に、東濃信用金庫から2月に廃店した旧兼山支店の土地と建物の寄贈に伴い、市役所で目録の贈呈式が行われました。寄贈された敷地内には明治中期に建てられ、当時としては貴重な3階建ての建造物「三階倉」があり、市重要文化財にも指定されています。

寄贈を受け市長は「県の宝ものに指定された美濃金山城跡をはじめ魅力ある核として、三階倉も兼山の観光振興に活用したい」とコメントしました。

## 地元に愛される桜まつり

4月8日、兼山桜まつりが蘭丸ふるりの森で行われました。烏峰太鼓の迫力ある演奏や、兼山小マーチングバンドRANMARUの息の合った演奏など、地元団体による発表会や飲食ブースなど、多くの人でにぎわいました。

今年は桜の開花が例年に比べ早く、園内の千本桜は散った後でしたが、訪れた人たちは新緑へと移り変わる風景を楽しんでいました。



RANMARUの演奏

## カタクリの花言葉は「初恋」

3月31日、4月1日に可児川下流域自然公園でカタクリまつりが行われました。今年のカタクリは例年よりも1週間ほど早く見頃を迎え、まつり以前から多くの来場者でにぎわいました。

当日は地元特産のさといもを使ったスープやサヨリ飯などの販売、地元ボランティアによる竹細工の体験コーナーや無料チャリティー茶会などさまざまな催しを実施。子どもから大人まで楽しめるイベントとなっていました。

また今年まつり開催に合わせ、Instagram上で投稿する初恋をテーマとしたフォトコンテストも開催。可憐に咲くカタクリの花の他、まつり当日に登場した特設パネルやフォトアイテムを使った写真約300枚が集まりました。応募写真はInstagramで「#かにスタ」と検索してご覧いただけます。



短冊書いて記念にパシャリ



一面に咲くカタクリ



採用者の田牧さん(左)と奥村さん(右)

## トンネル名書いたよ

二野大森トンネルの銘板の揮毫を、校区の小学校2校で募集し、田牧すすさん(当時旭小6年)と奥村珠壽さん(同東明小4年)が採用されました。

2人には3月16日に、記念品として実物の10分の1ほどの銘板レプリカが贈られました。

トンネルは市道56号線で現在施工しているもので、31年3月に開通予定。2人の銘板はそれぞれの校区側の出入口に設置されます。

## 新たな門出を新しい教室で

3月16日に、日本語が不慣れな外国人児童生徒が通う「ばら教室KANI」で修了式がありました。修了式は3月に増築工事が完了した新しい教室で行われ、3カ月から半年間通ったブラジルとフィリピン国籍の6人が門出を迎えました。

修了証をもらった児童生徒たちは、それぞれ日本語で両親への感謝の気持ちや4月から通う学校への意気込みをスピーチしました。



修了証を受け取る児童